

月刊 インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会 (日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して 116 年)



5月30日大統領官邸で行われた
モディ首相2期目の就任宣誓式

上：宣誓式に出席した全閣僚（左端がモディ首相）
右：コヴィンド大統領と宣誓をするモディ首相

(写真提供 インド首相府ホームページより)



目次

- 1. インドと日本の深い繋がりをひも解くー仏教とアーユルヴェーダ医学に関してー… P. 3
- 2. アーユルヴェーダは体・心・魂を整える人間の取扱説明書
ー健康維持のためにアーユルヴェーダを日常生活に活かすー… P. 6
- 3. 日印協会 会員交流会 …… P. 8
- 4. インドニュース (2019年5月) …… P. 9
- 5. イベント紹介 …… P. 17
- 6. 新刊書紹介 …… P. 18
- 7. 掲示板 …… P. 19

1. インドと日本の深い繋がりをひも解く —仏教とアーユルヴェーダ医学に関して—

Disclosing Long Relationship between India and Japan -Through Medical Connection of Buddhism with Ayurveda-

内閣府認証NPO法人日本アーユルヴェーダ協会 理事長
ハリウッド大学院大学 教授 医師・医学博士 上馬場 和夫

1. 医学を介したインドと日本の古くからの繋がりに

先日、日本のある有名な仏教団体の講師の方に、「皆さんは、お釈迦様の教えを日本の人々に説かれているのですが、お釈迦様の主治医をご存知ですか？」とお聞きしましたら、わからないと言われました。もちろん、お釈迦様が受けられた医療がどのようなものだったのかもご存知ありませんでした。

実はお釈迦様の主治医は、ジーヴァカ *J Ivaka* (侍縛迦、耆婆) と呼ばれる捨て子であった男性なのです。彼は、娼婦の子供として生を受けたのですが、母親が育てることができず路傍に放置されていたところを、通りすがりのアバヤ王子に見つけられたことから、養育されることになったのです。彼は、16歳から23歳まで、タキシラ (現在のパキスタン) の医学校でアーユルヴェーダを学び、名医の誉れを得て、お釈迦様の主治医を務めるようになったことが知られています。*J Ivaka* のような生まれの人物でも、仏陀という著名人の主治医になることができるという逸話は、仏教ならではのものですが、現代の熊本の赤ちゃんポストなどに、育てられないわが子を捨てたお母さんにとって、少しは心を明るくしてくれる話でしょう。

資料	母	父	養育者
『パーリ律』「衣健度」	サーラヴァティー	明示せず	アバヤ王子
『四分律』「衣健度」	サーラヴァティー	アバヤ王子	アバヤ王子
『根本有部律衣事』のサンスクリット・テキスト	他人の妻	ピンピサーラ王	アバヤ王子
『根本有部律雜事』	明示せず	ピンピサーラ王	アバヤ王子

(森章司氏「ジーヴァカ (*J Ivaka*) の諸事績年代の推定」¹⁾より引用)

また、その当時の医学と言え、アーユルヴェーダが主流でした。ですから、仏陀の医学である仏教医学と言え、ジーヴァカが学び且つ教えたアーユルヴェーダが主体になっているはず。ちなみにジーヴァカは、その後タイに行き、タイ伝統医学を作ったことが知られています。さらにまた、ジーヴァカの行った治療法は、日本最古の医学書である「医心方」(いしんほう、984年)に幾つかが掲載されており、日本の伝統医学にもジーヴァカのアーユルヴェーダ的処方が含まれているのです。一般的に日本の伝統医学は、中国から来たものと認識されていますが、そうではないのです。さて「医心方」は、丹波頼康が編纂し朝廷に献上したものです。その中には、ジーヴァカ以外に、仏典を漢語に翻訳したクマラジュウなどの名前がでてきます。これは、医心方30巻を翻訳された楨佐知子氏の本²⁾に記載されています。

日本の医療史に、古代インドの医学、アーユルヴェーダや仏教医学が大きく関与していたことを示す史実としては他にも、執念の来日を果たした鑑真和尚が携えていた薬物の中には、ハリータキー (*Terminalia chebula*) というアーユルヴェーダの万能薬があったと言われています。実際、そのハリータキーは、古代インドやペルシャから日本に入ってきた御物として正倉院に展示されています。



〈医心方第22巻。医心方の中でも唯一図を持つ巻〉
(ウィキペディアより)

日本の漢方医学の開祖の一人、田代三喜 (1465-1544年：1479年、鎌倉の妙心寺の僧になる) は、アーユルヴェーダを包含する仏教医学に精通していたはずですが、中国の朱子医学を受け入れた部分だけが強調されるため、漢方医学がインド伝統医学アーユルヴェーダと関連することに関しては殆ど話題に載りません。

現在の我々の生活で使われている日本語の中にも、仏教で使われるサンスクリット語が数多くあります。寿司屋さんで使う「シャリ」という用語は、シャー

リーピンダ・スウエーダというアーユルヴェーダの治療法でも使われています。セワ (世話) とか、ダンナ (旦那) は、それぞれ、セーワ *sEva*、ダーナ *dAna* というサンスクリット語が、発音の漢訳⇒和訳 (日本語への移行) となったものなのです。さらに、サンスクリット語であったことに誰もが驚かされる言葉として「天才バカボン」があります。これは田中利典先生の修験道の入門書³⁾に記載されていたことですが、赤塚不二夫さんの「天才バカボン」という用語は、実はサンスクリット語で、「覚った人=仏陀」という意味だということです。おそらく、バガヴァン (神) というサンスクリット語があるため、赤塚不二夫氏が、天才バカボン (縛迦梵、薄伽梵) という漫画を完成されたのでしょう。「天才バカボンとは誰ですか？」と聞くと、一様に聴衆の人達は「バカなお父さんの子供 (ぼんぼん) だから、バカボンでしょう」と答えられます。バカボンのお父さんの口癖が「これでいいのだ〜」ということですが、これは正に「あるがまま、ありのままの現在を受け入れよ」という仏教やヨーガなど古代インドの叡智を意味する言葉なのです。近年のメンタルケアにおいて重要なマインドフルネスの極意を示す用語にもなってくるのです。

歯ブラシの起源が、実はアーユルヴェーダであったことを知る人も稀でしょう。1991年、私たち富山県伝統医学調査隊は、ムンバイの街中でニームの並木道を発見しました。その小枝を折って、口にくわえて歯を磨く人たちの映像 (富山県所蔵) を収めました。アーユルヴェーダでは、ニームは強い抗菌活性をもつ薬木として古来から知られています。これを使って歯を磨く習慣は、仏教発祥の時代からインドで行われていたと思われます。その習慣が中国を経由して日本の僧侶に伝わり、それをヒントに日本の会社が歯ブラシを製造したのではないかと推定されています。

また、日本のお坊さん達を中心になって、足圧マッサージを、楽健法 (山内宥厳氏発案) とか足心療術などと命名して普及されています。仮説ですが、これも南インドのカラリパヤットで行われている足で行うオイルマッサージ (パーダーガーター) を、南インドで活躍した達磨大師などが中国の小林寺に持っていき、それが日本に伝わり、僧侶達が誰となく教えるようになったとも推定されます。そして入浴習慣は、通常日本の仏教から始まったと言われていますが、比叡山のふもとで現在も行われている蒸し風呂 (薬草をひき詰めるので薬草サウナともいえる) なども含めて、アーユルヴェーダの発汗法の影響があることが推定されるのです。

このように古代インドの医学は日本の仏教的生活習慣にも大きい影響を与えているのですが、それが十分に認識されていないように思われます。近年のアーユルヴェーダでは、オイルマッサージがしばしば行われます。そのため、「オイルマッサージでないとアーユルヴェーダではない」と思われがちですが、オイルなしのマッサージ法や薬草サウナ、さらには薬草なども、直接南インドから、あるいはチベットや中国の仏教を経由して日本に流入したアーユルヴェーダ的方法だと考えることができるのです。

2. 寺小屋の機能と現代における衰退

以上のように、仏教とアーユルヴェーダとの深い関係をご紹介しましたが、現在日本では、仏教がたくさんの流派に分かれ、学説も種々あり、複雑化した半面、弱体化しています。特に明治時代以降、廃仏毀釈¹⁾や修験道の

¹⁾ 廃仏毀釈 (廢佛毀釋、排仏棄釈、はいぶつきしゃく) とは、仏教寺院・仏像・経巻 (経文の巻物) を破毀 (破棄) し、僧尼など出家者や寺院が受けていた特権を廃することを指す。ウィキペディアより

禁止、神仏衆合の禁止など矢継ぎ早に出された政治的規制により大きく歪められた感があります。その中で、檀家制度の衰退に加えて、葬儀の方法や埋葬法の変化などが加わり、お寺が日々減少しています。これは、古代インドの叡智を伝えてきた教育インフラストラクチャーが衰退していることを意味します。

江戸時代やそれ以前、お寺の役割は寺小屋という教育インフラを担っていたのでした。子供たちは寺小屋で読み書きそろばんを習っていました。江戸時代のイギリスやフランスの識字率が15-30%であったのに対し、日本では70-80%の識字率を確保できたのは、寺小屋の存在ゆえだったのです。そこでは、お寺の僧侶だけでなく、地元の名士や専門家が、地域の将来のために生き方の智慧を子孫に受け渡そうとしていたと思われます。

そのようなお婆ちゃんやお爺ちゃんの生き方の智慧は、現代の学校では教えられません。また道徳の時間は十分にありません。現代の学校制度は、点数をつけて、子供たちを格付けする教育を行っているといっても過言ではないでしょう。確かに私立学校の中には、総合的な教育を提供しているところもありますが、子供たちのほとんどが公立学校に入ります。核家族化の中で、お年寄りと一緒に過ごすことも少なくなりました。その結果、ちょっとした体調不良の時に役に立つお婆ちゃんの智慧を学ぶ機会がなくなりました。更には人の生死にかかわる経験も、子供達がすることが少なくなりました。このように生だけでなく死についても学ぶ機会が少なくなっているのです。

3. 生命の科学アーユルヴェーダとは、我々の内なる智慧：それを教える寺小屋シャーラ

我々は、古代インドから伝えられたアーユルヴェーダの智慧を現代に生かすべきだと考えております。その場合、お寺などで過去には行われていた倫理教育や生き方や死に関する教育を、神社仏閣教会で行うべきだと考えております。ただ問題は、お寺さん自身が葬式の場所だけになっている事です。その中で、若い僧侶の方の中には、五輪塔の五輪²の意味が分からない人もいます。僧侶自身が、生活全般について指導してきた江戸時代のような、生活に根差した臨床仏教を教える機会が少なくなり、知識も徐々に失われてきているのです。

そこで、内閣府認証 NPO 法人日本アーユルヴェーダ協会は、「寺小屋シャーラ」という学びの場を復活させることを提唱し、検定や活動資格制度を行っています ([/npo-ayurveda.com/](http://npo-ayurveda.com/))。それは、神社仏閣教会の人達と、生命の科学アーユルヴェーダに詳しい方がコラボしながら、生き方と死に方の智慧であるアーユルヴェーダを、地域の住民の人達に教えるようなシステムです。実際、お寺での類似した活動は、一般社団法人寺小屋ブッダが、既に開始しておられます。

ただ、僧侶の方々がアーユルヴェーダに関して抱いている既成概念は、「アーユルヴェーダの言葉」つまりサンスクリット語は非常に難解なので、これを勉強しないとアーユルヴェーダはわからない」と思っておられることです。しかし、生命の科学アーユルヴェーダとは、「幸福で有益な長寿のための知識」として古代インドから伝えられてきたのですが、実はすべての人達の内奥に在る生き方と死に方の智慧でもあります。

2018年日本の百寿者は7万人程度になりました。うち20%が元気で幸せを生きている100歳老人です。では、この人達は、アーユルヴェーダを知っていたのでしょうか？あるいは、知らなかったのでしょうか？日本の百寿者は、サンスクリット語は殆どご存知ありませんが、内側にある生き方や死に方の智慧に直観的に気づいておられる方だと考えられるのです。つまり、サンスクリット語を知らなくても、我々の内なる智慧を学ぶことはできるはずで、そのように考えると、江戸時代、地域の名士の人達は、ある意味で生命の科学アーユルヴェーダの存在に気づき、それを代々子孫にうけつぐ活動をされていたのだと思われます。

現代日本社会においてサンスクリット語に極端にとらわれないで、アーユルヴェーダの智慧を学ぶ方法を我々は考えております。例えば、自身の脈を診ることで、自分が生き生かされていることに気づき、且つ、アーユルヴェーダの理論（後出：文分氏文章参照）の妥当性を学ぶことができます。また、心房細動という、放置すると有名野球選手のような脳梗塞の状態になってしまう状態を、事前にキャッチすることをお教えします。そのように自身の体を通じて、生き方の智慧であるアーユルヴェーダを教育することを考えております。もっとざっくり言えば、地域の名士やお婆ちゃん・お爺ちゃんに、食物の話でも何でも、彼らが子孫に残したい智慧を、

² 仏教で万物を構成するとされる「地・水・火・風・空」（五大）のこと。

生命の科学アーユルヴェーダとして教えていただくことができます。一方、死に方の智慧などについては、お寺（神社仏閣教会）の代表者や僧侶がなされるとよいでしょう。あるいは医療関係者であれば、厚生省が勧める人生会議（ACP: Advance care planning：厚生省ホームページ参照）について説明することもできます。

具体的には子供食堂などの名目で神社仏閣教会に人を集め、江戸時代の寺小屋教育システムをリバイバルして、通常の学校ではできない食育、徳育、愛育、知育、体育などを教える「寺小屋シャーラ」を作り上げていくことです。このように、幅広く老若男女を教育する場が戻れば、昨今の社会的問題や医療の倫理的&経済的問題などが、少しでも解決に向かうことでしょう。

代表的引用文献

- 1) 森章司：ジーヴァカ（*Jivaka*）の諸事績年代の推定、論文（研究ノート）2、原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究、中央学術研究所紀要、モノグラフ編 No.19, 2011.
- 2) 楨佐知子：日本昔話と古代医術、東京書籍、東京、1989.
- 3) 田中利典 著『よく生き、よく死ぬための仏教入門—「神仏和合」の修験道ならではの智慧』扶桑社新書266、東京、2018.

2. アーユルヴェーダは体・心・魂を整える 人間の取扱説明書

—健康維持のためにアーユルヴェーダを日常生活に活かす—

Ayurveda is Human Instruction Manual that
Keeps Body, Mind and Soul Balanced

ヘルス・プロモーション代表 ジヴァ・ジャパン・アーユルヴェーダ主宰
文分千恵 個人会員

近年、アーユルヴェーダは世界的に注目されています。アーユルヴェーダを現代医療に代わりうる代替医療ととらえるより、人間の健康と幸福をもたらす人類の英知という認識が徐々に広まっているように感じます。日本では今なお「アーユルヴェーダすなわちオイルマッサージ」という固定概念が強く残っていますが、もしアーユルヴェーダがオイルマッサージだけなら、これほど世界的に注目されていないでしょう。



アーユルヴェーダの起源は5千年前に遡るとされています。こんにち、伝統医療としての側面に焦点が当てられていますが、アーユルヴェーダは伝統医療にとどまりません。アーユルヴェーダの古典教典には、アーユルヴェーダは①有益な生き方と無益な生き方、②幸福な生き方と不幸な生き方、③人生にとって良いことと悪いこと、④寿命についての科学である、と書かれています。そしてアーユルヴェーダの役割は2つ。①病気の治療、②健康な人の健康維持です。私たちがイメージする医療の域を大きく超えています。人間は必ず死ぬけれども、最期まで健康で幸福に生きていくためのノウハウを教えてくれているのがアーユルヴェーダです。アーユルヴェーダは「人間の取扱説明書」と言われています。アーユルヴェーダが説いている健康とは、単に病気がないということではなく、体と心と魂が調和し、自己の内部とつながった状態をいいます。私たちは五感を通してつねに外界にばかり注意を向けています。その結果、自分自身とつながることを忘れてしまいます。それが体や心の不調をもたらすとアーユルヴェーダは言っています。自分自身とつながったときに体はエネルギーに溢れ、心は静

けさを取り戻します。心が静かなときに幸福を得ると考えられています。この状態をサンスクリット語で「スワスタ (Swastha)」といいます。アーユルヴェーダがめざす健康とはスワスタなのです。

スワスタは自分を知ることから始まる

どうすればスワスタが実現するのでしょうか。まずは自分を知ることから始めます。アーユルヴェーダが言っている「自分を知る」とはどのようなことでしょうか。アーユルヴェーダは、人間の体と心の質は一人一人違っているとしています。いくら食べても太らない人がいる一方、水を飲んだだけで太る人がいるのは体の質が違うからです。すぐにイライラしやすい人がいる一方で、どんなことがあっても動じない人がいるのは心の質が違うからです。自分の体と心の質を知ることができれば、心身の不調を招く事柄を回避し、スワスタの道を歩むことができます。



この宇宙の物質はすべて5つの要素からできています。「空（くう）、風、火、水、地」です。人間の体も物質なので例外ではありません。そのなかにおいて、両親の遺伝子と妊娠中のお母さんの生活の仕方により、どの要素をたくさんもった体質になるかが決定づけられます。それが個々人の違いに反映されるのです。風の要素（質）をたくさんもった人は、つねに手足が冷たく、肌が乾燥しやすく、心に落ち着きなさや不安感もちやすい傾向があります。火の質をたくさんもった人は、体温が高く、食欲旺盛で、イライラしやすく、肌トラブルに悩まされる傾向があります。水の質をたくさんもった人は、体と心が重くなり、鼻炎になりやすく、倦怠感に襲われやすい傾向があります。自分がどのタイプに属するかを知っていれば、心身の調子がベストな状態でなくなったときに自分をチューンナップすることができます。早期に体と心を整える方法を知っていれば、大きな病気にならずに体・心・魂が調和するスワスタの状態に戻ることができます。

いつまでも健康でいるために

人間は、人生後期に入ると、だれでも風の質が強くなるとアーユルヴェーダは言っています。60歳くらいから体の乾燥性が進みます。風の質が増えると、皮膚がカサカサして痒みが出たりします。年齢が進むほど睡眠の質が悪くなるのも頭のなかの風の質が乱れるためです。記憶力が低下しやすくなるのも同じ要因によるものです。高齢になると食べ物を飲み込むときに喉にひっかかりやすくなるのも、喉周辺の風の質の乱れによるものです。これは自然の変化なのですが、アーユルヴェーダはこうした状態を改善する方法を教えてください。アーユルヴェーダは毎日の養生法、季節の養生法に加えて、年齢帯ごとの養生法についても明確な示唆を与えてくれます。アーユルヴェーダが「人間の取扱説明書」と言われる所以です。

風の質の増加や乱れを鎮めるためには、風がもつ乾燥性や冷性や軽さと反対の質を取り入れるのがよいとアーユルヴェーダは教えています。それにはオイルを体に入れることが一番です。温かいオイルは風の冷たさや乾燥性を緩和してくれます。食事には十分な油分を取り入れましょう。オリーブオイルや太白ごま油で料理をするのはよい方法です。高齢になるほど油分は必要です。温めた太白ごま油で自分の体をマッサージして、長年支えてくれている体をいたわってあげてください。眠りが浅い人は温めた太白ごま油を足裏にすり込みましょう。良質な睡眠をもたらしてくれます。食べ物を飲み込みにくい人は、大きじ1-2杯の太白ごま油を口にふくみ、5分くらい経ったら油を口から出します。嚥下機能が改善することが期待されます。記憶力の低下が気になる方は、アーモンドオイルを2-3滴両方の鼻の穴に入れ、グイッと吸い上げてみましょう。これを毎日行くと、記憶力の改善がみられる可能性があります。高齢期ほどオイルによる自分ケアが大切です。風の質を落ち着かせることで体や心は安定し、スワスタを保てるのです。



さらに心と魂の充足が大切です。親しい仲間と集うことはサプリメント以上の健康効果があります。日印協会の会員さんはインドという共通項があるので、会員さんが集ってインドの話をするのは心の充足になります。みなさんでお寺巡りをして、大日如来や薬師如来などインド伝来の仏様に手を合わせるのも魂の充電になります。それがスワスタです。

アーユルヴェーダは健康で幸福な一生を送るために、毎日どういう生活をすべきか、季節の変化にあわせてどう生活を変えるべきか、年齢帯によってどういう生活がふさわしいかを詳しく教えてくれます。超高齢社会に突入した日本にとってアーユルヴェーダは不可欠な人生の知恵です。



8月2日(金)に「インドを語る集い<様々なインド>」として、今号で記事を書いてくださった文分千恵様に「アーユルヴェーダ」のお話をさせていただく予定です。次号7月号、協会ホームページ、メールで後日詳しくお知らせいたします。

3. 日印協会 会員交流会 Member's Gathering

日印協会 事務局長 西本達生

2019年度第1回日印協会会員交流会を5月30日、DIYA 六本木ヒルズ店にて開催しました。



左: 平林理事長
中央: Srivastava 首席公使

当日は、法人会員・個人会員・非会員含め約70名の方にご参加いただき、インド大使館からは、あいにく Sanjay Kumar Verma 大使ご出張でしたが、Deputy Chief of Mission の Raj Kumar Srivastava 首席公使ご夫妻、Siddharth Singh 教授・VCC センター長、Avnish Sharma 公使の4名の方にご出席いただきました。

最初に平林理事長から開会の挨拶ののち、Srivastava 首席公使はスピーチで、今年後半の安倍総理訪印および、来る10月に Ram Nath Kovind 大統領訪日など益々日印関係が進展しているとの言及がありました。そして、法人会員サンウェル社の内田氏に乾杯の発声をお願いし、食事と歓談に移りました。

最後に、ディスカバー・インディア・クラブ会長のラビンダー・マリク氏に締めの挨拶をお願いしましたが、インド人として希少な存在の民謡愛好家として、日本とインドの民謡をそれぞれ一曲ずつ披露いただきました。

今回の会場は、初めて六本木ヒルズ内 DIYA にお願ひしました。参加の方に数人ヒヤリングしたところ、料理の評判はよく、安堵しております。ただ場所が分かりにくかったようで、開始時間に間に合わなかった方が複数おられ、企画サイドとしてもう少し丁寧な案内が必要と反省した次第です。なお会場の DIYA、Vivek Kothari 社長には、終始会食中そばに待機され、料理のタイミングなど気配りいただきました。





右からインド大使館 DCM 夫人 Lakshmi さん、
続いてビハリ・ポーズゆかりの
Sakeena Rahman さん、Farida Rahman さん

今回も実に様々な方が集いました。インドの文化に興味を持ちインドと日本を行き来している方はもちろん、仕事で新たにインド担当が決まった方、インドでのビジネスを考えている方、日本でインド人相手のビジネスをされている方など、インドに関係の深い皆様と親交を深める目的で来場いただきました。今後も引き続き、日印親睦をキーワードに、相互理解のお手伝いできればと思っています。

(写真提供：個人会員 櫻井秀武氏ほか)

4. インドニュース(2019年5月) News from India

1. 内政

【連邦政府/連邦議会】

5月2日:ジャイトリー財相及びシタラマン国防相は、デリーにおける記者会見で、ジャイシェ・モハンマド (JeM) のマスード・アズハルの国連安保理制裁リスト入りは、インドの外交的勝利であると述べた。

5月23日:下院総選挙が開票された。BJPが大勝し単独過半数を獲得した。

5月30日:モディ首相及び閣僚等計58名が就任宣誓を行い、第2次モディ内閣が発足した。

5月31日:第2次モディ政権の各大臣の所掌が発表された。

第2次モディ政権は、最初の閣議を開き、6月17日から7月26日まで国会を開会することを決定した。6月19日に新下院議長を選出、7月5日に予算発表が行われる予定である。

【 कांग्रेस党】

5月8日:ラーフル・ कांग्रेस党総裁は、ラーファール戦闘機疑惑に関する最高裁の指示を曲解してモディ首相批判に悪用してきたことを、最高裁の追及を受けて正式に謝罪する文書を提出した。

5月25日:CWC (Congress Working Committee。 कांग्रेस党の最高意思決定機関。)は、ラーフル・ कांग्रेस党総裁の辞職願を却下した。報道によると、ラーフル総裁は、総裁職から退き、ガンディー家以外の人材を総裁に選任してほしいと述べたとされる。

【西ベンガル州】

5月13日:コルカタにおいて、シャーBJP総裁の選挙運動中に同総裁への投石を含む暴動が発生した。

5月15日:選挙管理委員会は、州内において混乱と暴力の発生が増加しているとして、各政党による選挙運動を投票完了まで禁止した。

2. 経済

【インド経済 (GDP成長率)】

5月31日:2018年度通年の実質GDP成長率は前年度比6.8%となり、前年度の同7.2%及び前回GDP公表時点のインド政府見通し(7.0%)を下回り、年度ベースではモディ政権発足以降、この5年で最も低い成長率となった。

2018年度第4四半期の実質GDP成長率は5.8%となり、前年同期(2016年度第4四半期)の同6.1%及び前四半期(2017年度第3四半期)の同7.0%(改訂値)を大きく上回り、また市場予測値(ロイター、同6.3%)を大きく下回る結果となった。四半期成長率が5%台となったのは、2014年度第3四半期(10-12月期)以来となる。

3. 外交

【印パキスタン関係】

5月1日:印外務省は、国連1267制裁委員会によるマスード・アズハルの国際テロリスト指定にかかる中国の保留解除に関するメディアからの質問に対し報道官発表をHPに掲載した。

メモ:印外務報道官発表

印外務報道官は、中国が国連1267制裁委員会によるマスード・アズハルの国際テロリスト指名の保留を解除したことに係るメディアの質問に答えて、ジャイシェ・モハンマド(JeM)の指導者であるマスード・アズハルをテロリストとして指名するという1267委員会の決定は国際社会のテロとの戦いの決意を示すための正しい方向への一歩である旨述べた。

【印イラン関係】

5月13日-14日:ザリーフ・イラン外相がインドを公式訪問し、スワラージ外相とアフガニスタン等の地域情勢を含む共通の関心事項について意見交換した。

【上海協力機構(SCO)】

5月21日-22日:スワラージ外相は、キルギス共和国の首都ビシュケクを訪問し、インドがSCOの正式な加盟国となって2回目となるSCOの外相会議に出席した(次回SCO首脳会合は2019年6月13日-14日にビシュケクで開催予定)。その際、スワラージ外相は、ジェーンベコフ・キルギス大統領、アイダルベコフ・キルギス外相、王毅中国外相とそれぞれ二国間協力に関する意見交換を行った。

【インド下院総選挙関連】

5月23日:インド下院総選挙の結果発表を受けて、各国首脳がモディ首相に祝辞を寄せた。

5月27日:インド政府は、「近隣国第一政策」に従い、30日の新閣僚の就任式へ、BIMSTEC(ベンガル湾多部門技術経済協力イニシアティブ)諸国、ジェーンベコフ・キルギス大統領(上海協力機構(SCO)の現議長)、ジャグナット・モーリシャス首相(今年の「在外インド人の日」(Pravasi Bharatiya Divas)主賓)を招待する旨発表した。

5月29日-30日:就任式への招待を受けた各国首脳・代表者が訪印した。

【就任式後の二国間協議】

5月31日:モディ首相は、ニューデリーにおいて、30日の新首相・閣僚就任式に出席したシリセナ・スリランカ大統領と、第2次政権発足後初の二国間協議を行った。その後、ジャグナット・モーリシャス首相、オリ・ネパール首相、ツェリン・ブータン首相、ハミド・バングラデシュ大統領それぞれと二国間協議を行った。

4. 日印関係

5月23日:安倍総理は、モディ印首相と日印首脳電話会談を行った。

今月の注目点：日印首脳電話会談

23日、午後6時から約10分間、安倍晋三内閣総理大臣は、ナレンドラ・モディ・インド首相と電話会談を行ったところ、概要は以下のとおりです。

1 安倍総理大臣から、インド総選挙の勝利に祝意を表した上で、モディ首相の力強いリーダーシップによる実績が評価を得たと考える、今後もモディ首相と手を携えて、日印関係の強化や、自由で開かれたインド太平洋の実現に向けて、緊密に協力していきたい旨述べました。また、来月のG20大阪サミットや、自分の次のインド訪問の機会にお会いできることを楽しみにしている旨述べました。

2 これに対し、モディ首相からは、安倍総理大臣からの祝意に対し心から感謝申し上げる、日印特別戦略的グローバル・パートナーシップはインドの発展につながってきた、これまでの5年間で二国間関係が強化されてきたことは喜ばしく、今後も更なる高い次元に高まると考える、安倍総理大臣と協力していきたい、G20大阪サミットでの再会を楽しみにしている旨述べました。また、天皇陛下の御即位、令和の始まりにお祝い申し上げる旨述べました。

今月の注目点：第2次モディ政権閣僚等所掌の発表

31日、印大統領府が発表した第2次モディ政権の閣僚・閣外大臣の各所掌は以下のとおり。アミット・シャーBJP総裁は内務大臣として、ジャイシャンカル前外務次官は外務大臣として、それぞれ入閣した。

今次内閣の主要閣僚に関する評価については、6月3日付で下記日印協会ホームページに掲載した平林博理事長コメント「第二次モディ内閣主要閣僚と評価」を参照願いたい。

<https://www.japan-india.com>

1. 首相【Prime Minister】

ナレンドラ・ダモダルダス・モディ (Mr. Narendra Damodardas Modi)

人事・公的苦情・年金【Personnel, Public Grievances and Pensions】、原子力エネルギー【Department of Atomic Energy】、宇宙【Department of Space】、その他重要事項、他の大臣が担当していない所掌【All important policy issues and all other portfolios not allocated to any Minister】

下院議員 (ウッタル・プラデシュ (UP) 州選出、BJP)、68歳

2. 閣僚【Cabinet Ministers】24名

(1) ラージ・ナート・シン (Mr. Raj Nath Singh)

国防【Defence】

下院議員 (UP州選出、BJP)、67歳

(2) アミット・シャー (Mr. Amit Shah)

内務【Home Affairs】

下院議員 (グジャラート (GJ) 州選出、BJP)、54歳

(3) ニティン・ジャイラム・ガドカリ (Mr. Nitin Jairam Gadkari)

道路交通【Road Transport and Highways】、中小零細企業【Minister of Micro, Small and Medium Enterprises】

下院議員 (マハーラーシュトラ (MH) 州選出、BJP)、62歳

- (4) D. V. サダーナンダ・ゴウダ (Mr. D. V. Sadananda Gowda)
化学・肥料【Chemicals and Fertilizers】
下院議員 (カルナタカ (KA) 州選出、B J P)、66 歳
- (5) ニルマラ・シタラマン (Mrs. Nirmala Sitharaman)
財務【Finance】、企業【Corporate Affairs】
上院議員 (KA州選出、B J P)、59 歳
- (6) ラームヴィラス・パスワン (Mr. Ramvilas Paswan)
消費者・食糧公共配給【Consumer Affairs、 Food and Public Distribution】
非議員 (人民の力党 (L J P))、72 歳
- (7) ナレンドラ・シン・トーマル (Mr. Narendra Singh Tomar)
農業・農民福祉【Agriculture & Farmers Welfare】、農村開発【Rural Development】、町村自治【Panchayati Raj】
下院議員 (マディヤ・プラデシュ (MP) 州選出、B J P)、61 歳
- (8) ラヴィ・シャンカール・プラサード (Mr. Ravi Shankar Prasad)
法務【Law and Justice】、通信【Communications】、電子・I T【Electronics and Information Technology】
下院議員 (ビハール (B R) 州選出、B J P)、64 歳
- (9) ハリシムラト・コール・バーダル (Mrs. Harsimrat Kaur Badal)
食品加工【Food Processing Industries】
下院議員 (パンジャブ (P B) 州選出、シロマニ・アカリ・ダル (S A D))、52 歳
- (10) タワール・チャンド・ゲーロット (Mr. Thaawar Chand Gehlot)
社会正義・能力開発【Social Justice and Empowerment】
上院議員 (MP州選出、B J P)、71 歳
- (11) スブラマニヤム・ジャイシャンカル (Dr. Subrahmanyam Jaishankar)
外務【External Affairs】
非議員。64 歳
- (12) ラメーシュ・ポクリヤル “ニシャンク” (Mr. Ramesh Pokhriyal ‘ Nishank’)
人的資源開発【Human Resource Development】
下院議員 (ウッタラカンド (U K) 州選出、B J P)、59 歳
- (13) アルジュン・ムンダ (Mr. Arjun Munda)
部族【Tribal Affairs】
下院議員 (ジャールカンド (J H) 州選出、B J P)、51 歳
- (14) スムリティ・ズビン・イラニ (Mrs. Smriti Zubin Irani)
女性・児童育成【Women and Child Development】、繊維【Textiles】
下院議員 (U P州選出、B J P)、43 歳
- (15) ハルシュ・ヴァルダン (Dr. Harsh Vardhan)
保健・家庭福祉【Health and Family Welfare】、科学技術【Science and Technology】、地球科学【Earth Sciences】

下院議員（デリー連邦直轄地（DL）選出、BJP）、64歳

(16) プラカーシュ・ジャヴァデカル（Mr. Prakash Javadekar）

環境・森林・気候変動【Environment、Forest and Climate Change】、情報・放送【Information and Broadcasting】

上院議員（MH州選出、BJP）、68歳

(17) ピューシュ・ゴーヤル（Mr. Piyush Goyal）

鉄道【Railways】、商工【Commerce and Industry】

上院議員（MH州選出、BJP）、54歳

(18) ダルメンドラ・プラダーン（Mr. Dharmendra Pradhan）

石油・天然ガス【Petroleum and Natural Gas】、鉄鋼【Steel】

上院議員（MP州選出、BJP）、49歳

(19) ムクタル・アッバス・ナクビ（Mr. Mukhtar Abbas Naqvi）

マイノリティー【Minority Affairs】

上院議員（JH州選出、BJP）、61歳

(20) プララハド・ジョシ（Mr. Pralhad Joshi）

議会【Parliamentary Affairs】、石炭【Coal】、鉱山【Mines】

下院議員（KA州選出、BJP）、56歳

(21) マヘンドラ・ナート・パンデイ（Dr. Mahendra Nath Pandey）

技能開発・起業促進【Skill Development and Entrepreneurship】

下院議員（UP州選出、BJP）、61歳

(22) アルヴィンド・ガンパト・サワント（Mr. Arvind Ganpat Sawant）

重工業・公企業【Heavy Industries and Public Enterprise】

下院議員（MH州選出、シブ・セナ（SS））、67歳

(23) ギリラージ・シン（Mr. Giriraj Singh）

畜産・酪農・水産【Animal Husbandry、Dairying and Fisheries】

下院議員（BR州選出、BJP）、66歳

(24) ガジェンドラ・シン・シェカーワト（Mr. Gajendra Singh Shekhawat）

水活用【Jal Shakti】

下院議員（ラジャスタン（RJ）州選出、BJP）、51歳

3. 閣外大臣（専管）【Ministers of State (Independent Charge)】 9名

(1) サントシュ・クマール・ガングワール（Mr. Santosh Kumar Gangwar）

労働・雇用（専管）【Labour and Employment】

下院議員（UP州選出、BJP）、70歳

(2) ラオ・インドラジット・シン（Mr. Rao Inderjit Singh）

統計・計画実施（専管）【Statistics and Programme Implementation】、計画（専管）【Planning】

下院議員（ハリヤナ（HR）州選出、B J P）、69 歳

(3) シュリパド・ヤツソ・ナイク（Mr. Shripad Yesso Naik）

AYUSH(専管)【Ayurveda, Yoga and Naturopathy, Unani, Siddha and Homoeopathy】、国防【Defence】

下院議員（ゴア（GA）州選出、B J P）、66 歳

(4) ジテンドラ・シン（Dr. Jitendra Singh）

北東部開発（専管）【Development of North Eastern Region】、首相府【Prime Minister's Office】、人事・公的
苦情・年金【Personnel, Public Grievances and Pensions】、原子力エネルギー【Atomic Energy】、宇宙【Space】

下院議員（ジャンム・カシミール（JK）州選出、B J P）、63 歳

(5) キレン・リジジュ（Mr. Kiren Rijju）

青年・スポーツ（専管）【Youth Affairs and Sports】、マイノリティー【Minority Affairs】

下院議員（アルナチャル・プラデシュ（AR）州選出、B J P）、48 歳

(6) プラハラード・シン・パテル（Mr. Prahalad Singh Patel）

文化（専管）【Culture】、観光（専管）【Tourism】

下院議員（MP州選出、B J P）、58 歳

(7) ラージ・クマール・シン（Mr. Raj Kumar Singh）

電力（専管）【Power】、新・再生可能エネルギー（専管）【New and Renewable Energy】、技能開発・起業促進
【Skill Development and Entrepreneurship】

下院議員（BR州選出、B J P）、66 歳

(8) ハルディーブ・シン・プリ（Mr. Hardeep Singh Puri）

住宅・都市（専管）【Housing and Urban Affairs】、民間航空（専管）【Civil Aviation】、商工【Commerce and
Industry】

上院議員（UP州選出、B J P）、67 歳

(9) マンスク・L・マンダヴィヤ（Mr. Mansukh L. Mandaviya）

海運（専管）【Shipping】、化学・肥料【Chemicals and Fertilizers】

上院議員（G J州選出、B J P）、44 歳

4. 閣外大臣（副大臣）【Ministers of State】 24 名

(1) ファガンシン・クラステ（Mr. Faggansingh Kulaste）

鉄鋼【Steel】

下院議員（MP州選出、B J P）、60 歳

(2) アシュヴィニ・クマール・チョベイ（Mr. Ashwini Kumar Choubey）

保健・家庭福祉【Health and Family Welfare】

下院議員（BR州選出、B J P）、66 歳

(3) アルジュン・ラム・メグワル（Mr. Arjun Ram Meghwal）

議会【Parliamentary Affairs】、重工業・公企業【Heavy Industries and Public Enterprises】

下院議員（RJ州選出、B J P）、65 歳

- (4) V. K. シン (General (Retd.) V. K. Singh)
道路交通 **【Road Transport and Highways】**
下院議員 (UP州選出、B J P)、68 歳
- (5) クリシャン・パル (Mr. Krishan Pal)
社会正義・能力開発 **【Social Justice and Empowerment】**
下院議員 (HR州選出、B J P)、62 歳
- (6) ダンベ・ラオサヒブ・ダダラオ (Mr. Danve Raosaheb Dadarao)
消費者・食糧公共配給 **【Consumer Affairs、 Food and Public Distribution】**
下院議員 (MH州選出、B J P)、64 歳
- (7) G. キシャン・レディ (Mr. G. Kishan Reddy)
内務 **【Home Affairs】**
下院議員 (テランガナ (T S) 州選出、B J P)、55 歳
- (8) パルショタム・ルパラ (Mr. Parshottam Rupala)
農業・農民福祉 **【Agriculture and Farmers Welfare】**
上院議員 (G J 州選出、B J P)、64 歳
- (9) ラムダス・アタワレ (Mr. Ramdas Athawale)
社会正義・能力開発 **【Social Justice and Empowerment】**
上院議員 (MH州選出、Republican Party of India (R P I))、59 歳
- (10) ニランジャン・ジョティ (Sadhvi Niranjana Jyoti)
農村開発 **【Rural Development】**
下院議員 (UP州選出、B J P)、51 歳
- (11) バーブル・スプリヨ (Mr. Babul Supriyo)
環境・森林・気候変動 **【Environment、 Forest and Climate Change】**
下院議員 (西ベンガル (WB) 州選出、B J P)、48 歳
- (12) サンジーブ・クマール・バルヤン (Mr. Sanjeev Kumar Balyan)
畜産・酪農・水産 **【Animal Husbandry、 Dairying and Fisheries】**
下院議員 (UP州選出、B J P)、47 歳
- (13) ドトリ・サンジャイ・シャームラオ (Mr. Dhotre Sanjay Shamrao)
人的資源開発 **【Human Resource Development】**、通信 **【Communications】**、電子・I T **【Electronics and Information Technology】**
下院議員 (MH州選出、B J P)、60 歳
- (14) アヌラグ・シン・タクル (Mr. Anurag Singh Thakur)
財務 **【Finance】**、企業 **【Corporate Affairs】**
下院議員 (UP州選出、B J P)、44 歳

(15) アンガディ・スレシュ・チャンナバサッパ (Mr. Angadi Suresh Channabasappa)

鉄道【Railways】

下院議員 (KA州選出、BJP)、63歳

(16) ニティヤナンド・ライ (Mr. Nityanand Rai)

内務【Home Affairs】

下院議員 (BR州選出、BJP)、53歳

(17) ラタン・ラル・カタリア (Mr. Rattan Lal Kataria)

水活用【Jal Shakti】、社会正義・能力開発【Social Justice and Empowerment】

下院議員 (HR州選出、BJP)、67歳

(18) V. ムラリーダラン (Mr. V. Muraleedharan)

外務【External Affairs】、議会【Parliamentary Affairs】

上院議員 (MH州選出、BJP)、60歳

(19) レヌカ・シン・サルタ (Mrs. Renuka Singh Saruta)

部族【Tribal Affairs】

下院議員 (チャッティースガル (CG) 州選出、BJP)、55歳

(20) ソム・パルカシュ (Mr. Som Parkash)

商工【Commerce and Industry】

下院議員 (PB州選出、BJP)、70歳

(21) ラメシュワル・テリ (Mr. Rameswar Teli)

食品加工業【Food Processing Industries】

下院議員 (アッサム (AS) 州選出、BJP)、49歳

(22) プラタプ・チャンドラ・サランギ (Mr. Pratap Chandra Sarangi)

中小零細企業【Micro, Small and Medium Enterprises】、畜産・酪農・水産【Animal Husbandry, Dairying and Fisheries】

下院議員 (オディシヤ (OD) 州選出、BJP)、64歳

(23) カイラシュ・チョードリー (Mr. Kailash Choudhary)

農業・農民福祉【Agriculture and Farmers Welfare】

下院議員 (RJ州選出、BJP)、45歳

(24) デバスリー・チョードリー (Mrs. Debasree Chaudhuri)

女性・児童育成【Women and Child Development】

下院議員 (WB州選出、BJP) 48歳

5. イベント紹介 Japan-India Events

◇ 今後のイベント ◇

◆ 東京と大阪でナンディタ・ダース監督作『マントー』を上映

1946年。インドはイギリスからの分離独立へと向かう動乱期にあった。人気作家マントー（ナワーズブディーン・シッディーキー）は、戯曲の才能にも優れ、ボンベイを拠点に活躍していた。多くの友人に囲まれ、妻サフィア（ラシカー・ドゥッガル）はよき理解者として夫を支え続けた。一九四七年八月インド・パキスタンが分離独立すると、国内外で宗教対立が激化。マントーは、インドのボンベイからパキスタンのラホールへ移住を迫られる。この頃、作家としての危機を迎えつつあった。言論と表現の自由に対するマントーの声明は、自信と確信に満ち、揺るぎないものであったが、やがて酒に耽溺するようになり、生活は荒廃していった—

【東京会場】

日時：2019年7月4日（木） 18:00 開映（17:30 開場）

2019年7月7日（日） 16:00 開映（15:30 開場）

会場：東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール（東京都府中市朝日町3-11-1）
プログラム 『マントー』本編上映

映画解説（日本語通訳あり）：ナンディタ・ダース監督

その他 入場無料、先着501名、申込不要

【大阪会場】

開催日時 2019年7月5日（金） 18:00 開映（17:30 開場）

会場：大阪大学中之島センター（大阪府大阪市北区中之島4-3-53）

主催：東京外国語大学南アジア研究センター（FINDAS）、東京外国語大学 TUFUS Cinema

共催：大阪大学外国語学部ウルドゥー語専攻 後援：大阪大学 21世紀懐徳堂

協賛：Viacom 18 Motion Pictures、ana、公益社団法人 在日インド商工協会（ICIJ）、ホテルマネージメント
インターナショナル株式会社（順不同）

詳しい映画情報はこちらの下記ウェブサイトでご確認ください。

<https://tufuscinema.jp/190704-2/>



6. 新刊書紹介 Books Review

§ 【夢をかなえるアーユルヴェーダ】～恋愛・結婚・妊活の 超強力引き寄せ術！

著者：新倉亜希 出版社：BAB ジャパン

価格：1,500円＋税 ISBN 978-4-8142-0127-3

最近、女性は男性より元気だと言われることもあります。しかし、女性人生のステージで起こる様々な問題（恋愛、結婚、妊活、出産、更年期）を乗り越えて行く際には、とてつもなくエネルギーが必要で、身体だけでなく、心のバランスも崩すこともあるでしょう。

そのそれぞれの問題に対して、著者が体質別に、「生き方の知恵」、アーユルヴェーダの自然療法を活用した解決方法をやさしく分かりやすくアドバイスしています。（本を読んでいると著者の声が聞こえる様です。）

冒頭の体質チェックをすると、私は100%のヴァータ体質です。冷え性で乾燥肌、そして気分が変わりやすい性格。はい、それは私のことです。

忙しくて自分の健康に構っている暇のない女性のあなたに、おすすめの一冊です。著者の新倉亜希さんは日印協会の会員で、アーユルヴェーダビューティーカレッジ 学長です。



日印協会主催

「選挙後のインドおよび日印関係に関するシンポジウム」ご参加受付中

総選挙と組閣の結果を踏まえ、インド内政・外交・経済と日印関係につき、外交政策責任者による講演および有識者によるパネルディスカッションを組み合わせたシンポジウムを日印協会主催で開催致します。

日時：2019年7月8日（月） 14:00～16:30

場所：桜田門・法曹会館 千代田区霞が関1-1-1 電話 03-3581-2146

参加費：法人会員お一人4,000円・個人会員2,000円、非会員5,000円

定員：100名（先着順 法人会員会社から複数ご参加いただけます）

メールまたは、協会HP申込用紙に必要事項をご記入の上FAXでお申込み下さい。

7. 掲示板 Notice

〈次回の『月刊インド』の発送日〉

次回 7月-8月合併号の発送は、2019年7月19日(金)を予定しております。

催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

〈編集後記〉 古代インドから伝えられてきた生命の科学アーユルヴェーダとは、「健康で幸福な一生を送るための知識」「生き方と死に方の智慧」... 手軽に挑戦できる事なら試して損はないと思います。もっと詳しくアーユルヴェーダを知りたい方は8月開催予定の協会主催「様々なインド」にもご参加くださいね。

【日印協会からの重要なお知らせ】

日印協会ホームページの会員パスワードを 2019年8月1日に変更いたします。

新しいパスワードは2019年7月19日発送予定の次号月刊インドに同封いたしますので、忘れずに開封をお願い致します。

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。



入会随時受付中



日印協会は、1903年、長岡護美、大隈重信、澁澤榮一の3名が中心となって創設されました。以来、日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。

現在の協会の活動は、当協会の活動に賛同下さる会員の皆様からの会費によって支えられております。今後もより良い活動を続けるために、当協会の活動にご賛同いただける法人・個人のご入会を歓迎致します。

インドに関心をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費: 個人	1口(8,000円)から	☆入会金	個人 2,000円
学生	1口(4,000円)から		学生 1,000円
一般法人会員	1口(100,000円)から		法人 5,000円
特別法人会員	1口(150,000円)から		(一般法人、特別法人会員共に)

月刊インド Vol.116 No.5 (2019年6月21日発行) 発行者 平林博 編集者 西本達生
発行所 公益財団法人日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <https://www.japan-india.com/>